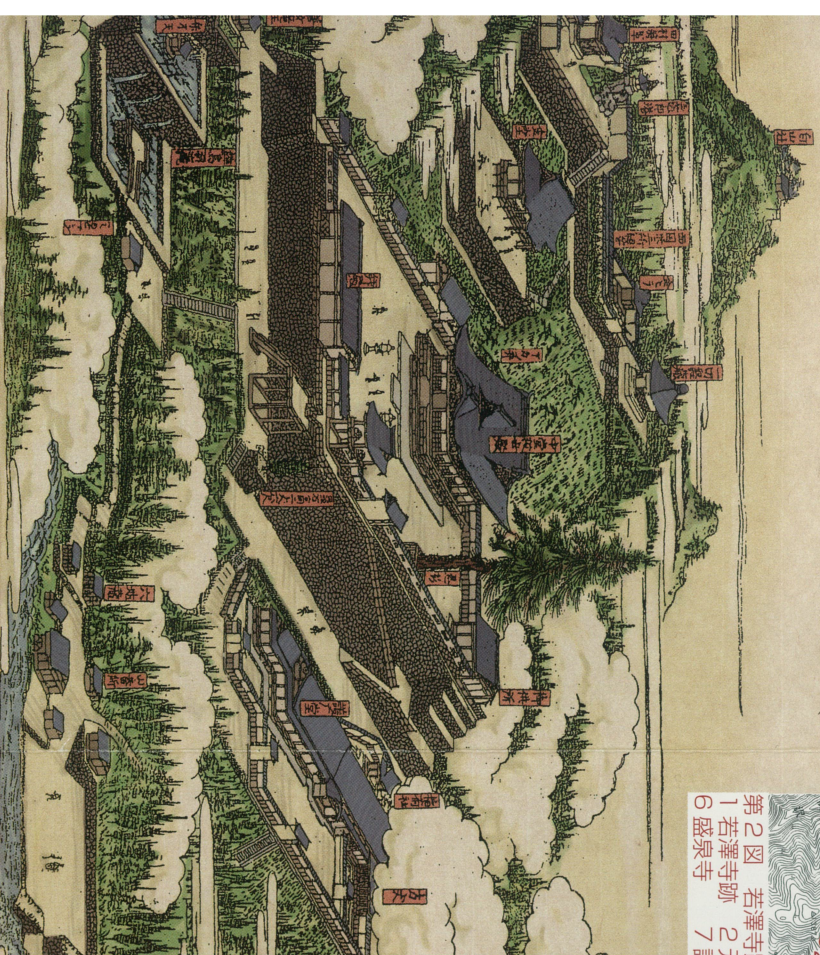


栄華を極めた信濃日光

若澤寺跡案内



(彩色若澤寺絵図)



第2図 若澤寺跡とその周辺
1 若澤寺跡 2 元寺場跡 3 波多山城跡 4 仁王門 5 西光寺跡
6 盛泉寺 7 諏訪神社

若澤寺跡・元寺場跡とその周辺図



- 案内図**
- 至松本に
 - 至上高地
 - 至波田
 - 至波田神社
 - 至波田公民館
 - 至波田郵便局
 - 至波田小学校前より
 - 至若澤寺跡
- 交通のご案内**
- 松本電鉄上高地線
 - 国道 158 号線
- 交通のご案内
- 松本電鉄上高地線
 - 国道 158 号線
- 交通のご案内
- 松本電鉄上高地線
 - 国道 158 号線
- 交通のご案内
- 松本電鉄上高地線
 - 国道 158 号線

若澤寺史跡保存会

〒390-1401 長野県松本市波田4417-1
TEL.0263-92-2268 FAX.0263-92-2332
このパンフレットは、長野県地域発元気づくり支援金活用事業により作成したものです。

2014年発行

旧中堂救世殿



松本市波田水上(盛泉寺・水沢観音堂)

若澤寺の歴史

- 山号 慈眼山又は水澤山 ○面積 11,000㎡(1.1ヘクタール)
- 位置 若澤寺跡 松本市波田水沢 ○宗旨 真言宗
- 縁起伝説 奈良時代に大堂へ行基菩薩が創建。
中興元寺場(標高1,250m)へ坂上田村麿。
室町時代(1458)白山下より水沢宮の若澤寺へ下る。
- 学術研究調査により解った実態
- 元寺場は、平安末(11世紀)に里山寺院として創建。鎌倉期(12世紀)には元寺場は放棄され墓地になった。
 - 鎌倉期上波田へ村上采女(ハタ)判官代源盛国が西光寺を創建。
 - 室町時代水沢谷の若澤寺へ大幡那波多郷源信盛が梵鐘寄進。
 - 室町(15世紀)に元寺場が拡張され、白山信仰の山林道場があった戦国末(16世紀)まで使われた。
 - 天正2年(1574)・3年ごろ越前(福井県)や紀州(和歌山県)から廻国聖・巡礼僧が水沢観音霊場を訪れ供養碑を建てている。
 - 江戸初期寛永12年(1635)西光寺仁王門から若澤寺まで十八町に丁石が建立され、現在も参道に数基が残る。
 - 延宝4年(1676)から新義真言寺院となり、徳川将軍から寺領10石の朱印を受け、上段から田村堂・宝篋印塔・一切経蔵・金堂・中堂救世殿・鐘楼・護摩堂・方丈・御手洗場など「信濃日光」と呼ばれた七堂伽藍が造営され、絵草紙で紹介される所となる。
 - 明治元年(1868)から始まった廃仏毀釈令によってわずか5年間で総ての建物が取り払われ、現在は石垣と寺の礎石だけが残っている。



銅造菩薩半跏像

旧若澤寺より伝わる(盛泉寺)
奈良時代末作 像高 22cm 県宝



銅造薬師如来御正体(懸仏)残闕

旧若澤寺から伝わる(盛泉寺)
鎌倉時代後期作 像高 19.3cm 県宝



木造不動明王立像

旧若澤寺より伝わる(盛泉寺)
鎌倉末期作(推定) 像高 163cm
松本市重要文化財



金亀多宝塔

旧若澤寺の本尊厨子(盛泉寺)
江戸時代代作 総高 150cm
松本市重要文化財



吽形



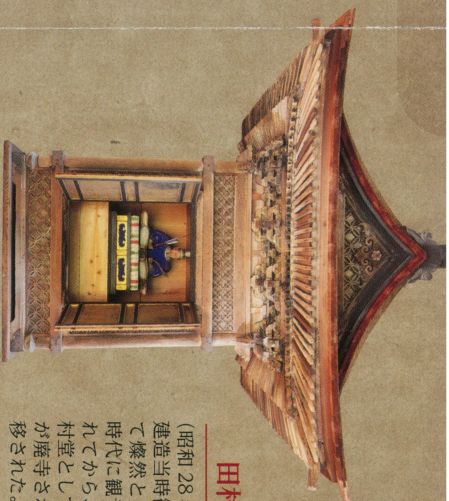
仁王門

旧西光寺(後に若澤寺
所有) 木造金剛力士
(阿吽)立像(県宝)
鎌倉末期(元享2年=1322)大禮那瀧重入・
仏師普光寺妙海作

金剛力士像



阿形



田村堂国重要文化財

(昭和28年8月29日指定)室町後期の建造当時観音厨子であり金箔が貼られて燦然と輝く華麗なものだった。江戸時代に観音の厨子に金亀多宝塔が造られてから、田村將軍の座像を納める田村堂として、最上段へ移された。若澤寺が廢寺された際上波田の阿弥陀堂前へ移された。



長祿の阿弥陀来迎三尊種子碑

(松本市重要文化財)室町時代長祿2年(1458)施主平朝臣六翁沙弥盛高旧若澤寺跡の参道脇に立つ 松本市重要文化財



天正閻魔王碑

(松本市重要文化財)阿弥陀堂横にある 天正2年(1574)本願寺前任経王



西光寺絵図(上波田阿弥陀堂)

(松本市重要文化財)上波田寺家の義忠山西光寺(天台宗から後に真言宗に変わる)は、波多郷の地頭村上采の源姓波多氏の菩提寺として建立された水沢山若澤寺の別当寺といわれる。絵図は正保2年(1645)に描かれた原画を元に寛政8年(1796)に深志の絵師に写させたことある。中世からの記録が記された貴重な史料である。



元寺場遺跡(標高 1,250m・白山の下)

平成11年(1999)4月から3年間にわたり、水沢山の高地に考古学的発掘調査が行なわれた。

報告書では、最も古くから里山寺院として、宗教活動が行なわれたのは、11世紀前後の平安時代末であった。奈良時代末作の銅造菩薩半跏思惟像は西山麓で朝廷の大野御牧を経営し、また御摩郡の河西部に大井堰を開いた京都大秦から入った渡来系の古代氏族秦氏(はたうじ)の念持仏か。畠(はた)郷へ紀州から熊野神社を勧請したのは判官代源盛国らしい。室町時代に再び境内を大規模に拡大されて、白山信仰の里山系寺院として、戦国末(16世紀)まで盛んに使われたが、江戸時代には、ほとんど顧みられなくなったという。



白山から上波田集落までの若澤寺宗教空間(復元図)